



# 同好会ひろば

第299号  
R6. 1. 11  
No.4

## 小・中学校合同部会報告 11月29日(水) 於 名古屋市中小企業振興会館

11月の小・中学校合同部会では、小・中学校それぞれの各分野の部長や副部長、推進部員に加え、担当役員にも参加していただき、3グループに分かれ、本年度の実践に関する「主体的に学ぶための学習段階の設定」「学び続けるための学習問題と学習活動の設定」「主体的に学習に取り組む態度の評価」についての成果と課題を発表していただきました。



7月の小・中学校合同部会と同様に、協議の司会者を推進部員に任せることで、参加者全員が主体的に取り組むことができるようにしました。また、手立ての成果や課題に対する質問や意見などを付箋紙に記入してもらい、単元計画表に貼っていくことで、要点を整理しながら効率よく協議を進めることができました。

小・中学校合同で行ったグループ協議では、単元全体の流れに関する質問が小学校の先生から出され、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する質問が中学校の先生から出されました。異校種の先生方が混じり合っで行われた協議により、互いの取組のよさに興味をもったり、社会科学学習における小学校から中学校へのつながりについて考えたりするきっかけが生まれ、参加者の今後の実践に向けた視野を広げることにつながりました。

会場全体で行った協議の振り返りでは、「主体的に学習に取り組む態度」の観点における評価の見取り方について話題に上がり、「児童・生徒の考えが複数記述されていけばよいのか。」や「どのような方法で記述内容の質を読み取っていくのか。」など、本年度の実践で見いだされた課題を踏まえた話し合いが行われました。

今後の予定ですが、1月18日(木)に、小・中学校合同発表会を名古屋市中小企業振興会館にて開催します。この合同発表会では、参加していただく同好会員の皆様に、『どの実践に取り組んでみたいか』をテーマに協議していただき、小・中学校の各グループが1年間取り組んできた実践を同好会全体に広げていきたいと思っております。今後の推進部員を担うであろう若手同好会員をはじめ多くの方々にご参加いただき、「憧れの人」を見つけていただければ幸いです。是非ご参加ください。

### 【第299号 紙面】

小・中学校合同部会	(p1)
OB訪問インタビュー 立岡 昌之先生	(p2・3)
第2回・第3回授業づくり講座	(p4)
ステップアップ研修・懇親会	(p5)
授業力アップ研修・オンライン交流会・今後の予定	(p6)



## 訪問インタビュー

# 立岡 昌之 先生

昭和58年、稲生小学校に着任。以降、八事小、五反田小、八事東小、教育センター指導主事を経て、有松中学校長に。その後、指導室指導主事、指導室主任指導主事、陽明小学校長を歴任されました。  
現在は、新しい学校づくり推進室 教育相談体制指導員としてご活躍されています。

同好会事務局長、研究会役員、同好会会長、全小社研副会長を歴任された立岡昌之先生。先生の豊富なご経験を基に、名古屋市社会科同好会が発足してからの歴史や今後の同好会活動を充実させるための貴重なお話を伺いました。今回の訪問インタビューは、事務局長の石原、ひろば担当事務局の伊藤のほか、4年前まで立岡先生と同じ職場であった事務局の石垣と、推進部員の高木先生が飛び入り参加されました。

### 1. 同好会の熱気

立岡先生が社会科同好会に入会されたきっかけは何ですか？



立岡先生

本格的に参加し始めたのは、5年目からです。  
小学校2年生の社会科(当時)について、支部教研(現在の市教研)で発表したことがきっかけです。4年目までも同好会に入ってはいましたが、先輩方の話の内容がよく理解できなかったため、なかなか参加することができずにいました。  
でも、少しずつ社会科の勉強を進めていた甲斐もあり、部会での話が自分の頭の中でかみ合うようになってきた頃から、積極的に参加するようになりました。



事務局  
石原

努力を積み重ねて、偉大な先輩方の輪の中へ入っていかれたのですね！  
当時の例会では、どのようなことを行っていたのですか？



事務局  
石垣



立岡先生

当時の例会の多くは、北区の黒川にある「名古屋市総合社会福祉会館」で行っており、150人ほど入ることができる大会議室は常に満員の状態でした。当時は午後6時に会が始まりましたが、開始時刻には、ほぼ全ての参加者が集っていました。  
例会では教育センターの指導主事や有名な先生が来て講話を行ったり、各学年グループが研究発表を行ったりしていました。特に研究発表では、小学校部会と中学校部会の間で激しく議論を戦わせていましたよ。  
ちなみに、当時の全体会では夕食の弁当も出ていました。しかも、食事の際にマイクが順に回ってくるので、校名・氏名を述べるというのが恒例でした。



ご自宅では様々な資料を拝見しました。

### 2. 同好会で担った役割

立岡先生の印象に残っている、同好会での思い出などはありますか？



立岡先生

それは、自分が一度も参加したことがないのにも関わらず担うこととなった、フィールドワークの担当です。  
担当初年度の訪問先は長野県の白馬でした。オリンピックで使用するスキージャンプ場を見学した際には、競技で使用する道具の変遷についてガイドを行いました。  
もちろん、見学場所だけでなく、バスの中で行うガイドについても途切れることなく行う必要があったため、きちんとした下調べを行いました。あいまいなガイドをすると、先輩方から厳しい指摘が入るため、インターネットが普及していなかった当時は、最新の情報を手に入れるのに苦労しました。フィールドワークの資料を作るのにも根気と労力が必要でした。



事務局  
伊藤

途切れることなくガイドを行うのですか!? とても驚きです...



推進部員  
高木先生



立岡先生

さらに、宿泊を伴ったため、下調べ以外にも観光バスや宿泊施設の手配、夜の懇親会の準備など、様々な役割をこなしていました。  
ちなみに担当2年目は、船に乗って当時建設中だった明石海峡大橋を下から見上げるというフィールドワークを行いました。



### 3. 「同好会ひろば」と「あゆみ」、各出版物の創意工夫



本インタビューは、今後「同好会ひろば」の記事として掲載させていただきますが、「同好会ひろば」の作成が始まった経緯について何かご存知でしょうか？



「同好会ひろば」は、昭和59年に「同好会の瓦版を作りたい」との発案で始まったと聞いています。当時は何でも手書きの時代だったので、作成する作業は大変だっただろうと思います。  
ただ、その内容は名古屋の社会科研究にとどまらず、全国の動向や様々な情報を会員に届けるという使命と熱意が伝わるもので、インターネットの普及していない当時は、貴重な情報源でもありました。  
最近の「同好会ひろば」は、記録に偏っているように感じます。発行する意味・意義を踏まえていく必要があるのではないのでしょうか。



新規会員を獲得するためにも、今後の「同好会ひろば」の方向性について検討する余地があるのかもしれませんが、また、節目の刊行数の際には、何か記念となる特集を組むことができればと考えています。  
「目でみるきょうど」や「きょうどの学習」（現在は合本して「わたしたちのきょうど」）をはじめ、同好会が作成してきた数々の出版物についてはいかがですか？



これまで同好会の会員が中心となって制作した出版物は数多くあります。「わが町名古屋を歩く（昭和54年）」「再発見 名古屋（平成元年）」「アイデアいっぱい！総合的な学習（平成12年）」などです。社会科の授業づくりの醍醐味は何といっても、地域素材の発掘と教材化です。同好会の出版物にはそれらの具体例がふんだんに盛り込まれています。様々な出版物の作成によって若手からベテランまでの人と人とのつながりが広がり、組織が図られていったこともいうまでもありません。



出版物の作成によって地域教材を活用することができるだけでなく、会員同士や外部の方とのパイプを太くすることができることを再確認することができました！

### 4. 最後に社会科同好会のみなさんへ

最後になりますが、名古屋市社会科同好会に所属している会員に向けて伝えたいことはありますか？



社会科は、戦後、新しい教科として生まれ、名古屋市社会科同好会もその意気込みの中で活発に研究活動を行ってきました。私は例会の熱気、「同好会ひろば」や「あゆみ」の創意工夫、出版物に込められた若手からベテランまでの思いと、新しい教科を作り上げていく過程でのエネルギーを味わわせていただきました。  
ただ、子どもの変化や世の中の要請とともに学習指導要領も改訂され、平成元年には小学校低学年で生活科が始まり、平成10年には総合的な学習の時間が始まりました。また、かつて週7時間ほど確保されていた社会科の授業時数（6年生）も、現在は週3時間と半分以下になりました。この先、社会科はどうなってしまうのでしょうか。



かつての授業時数から半分程度まで減ってしまっていることには驚きです…！  
その中でも、ナゴヤ・スクール・イノベーションの公開授業等を参考に、実際の授業を工夫しようとしている同好会会員もいると思います。特に、自由進度学習への取組が盛んようです。



昨年、自由進度学習の授業を見ました。一斉授業の腕を磨き、精度を高めようと努力してきた身としては複雑な心境でしたが、児童一人一人の関心に沿って学習を進めることができるような工夫がなされていました。  
それを見て、私は社会科の学習・授業こそ面白いと改めて思いました。なぜなら、一つの事実に対して様々な見方をすることが許されるからです。このように、子ども一人一人が輝くことのできる場面が、社会科には用意されていると思います。



そうですね。我々現職の教員にも、まだ工夫できることが残されていると思います。



今後の変化を見通すことは難しいですが、これまで同好会を作り、発展させてきた先輩方の熱気や創意工夫、思いを受け継ぎ、発展させてほしいです。



全員で学び合い、発展させたいと思います。貴重なお話、ありがとうございました！

## 第2回・第3回授業づくり講座

「第2回授業づくり講座」を7月6日に中小企業振興会館にて、「第3回授業づくり講座」を9月14日にオンラインにて開催しました。講師を務めていただいた先生方から、多くの学びを得ることができました。

### 《第2回授業づくり講座》

【小学校】講師

大磯小学校 下村康大先生	原小学校 本間研児先生
笹島小学校 三上 信先生	鳴海東部小学校 石垣成一先生
小碓小学校 伊藤 淳先生	

**テーマ:**『研修リーダーの先生方が2学期におすすめする教材や資料について紹介します!』

小学校の授業づくり講座では、3年生、4年生、5年生、6年生の各学年に分かれて、2学期の授業に役立つ教材や資料を講師の先生方から紹介していただきました。

学年によっては紹介にとどまらず、資料の作り方や教材研究の仕方、子ども主体で行う学習問題づくりなどについてご教授いただけました。また、学年ごとに分かれたことによって、より具体的な質問や悩みを相談する様子も伺えました。さらに、他の授業力アップ研修グループの先生方と交流する機会も生まれました。この研修により、若手会員の憧れる先輩がまた一人、増えたのではないかと思います。



【中学校】講師

志段味中学校 久々野将広先生	高見小学校 石田賢司先生
一色中学校 森本敬憲先生	

**テーマ:**『研修リーダーの先生方が学習課題と単元計画、評価とワークシート、個別最適な学びと協働的な学びについて紹介します!』

中学校の授業づくり講座では、二つの中学校グループを一つの研修会場にまとめ、3名の研修リーダーの先生方からのご講話に耳を傾けました。ご講話では、熱心にメモを取る若手の先生方の姿が見られ、悩んでいた、知らなかったりすることを学ぶ良い機会となりました。中には「もっと詳しく聞いてみたい。」という意欲的な声も聞かれました。

この研修が中学校グループ全体で顔を合わせる初めてのタイミングになり、若手の先生方同士の交流も見られました。



### 《第3回授業づくり講座》

【小学校・中学校】

**テーマ:**『1学期に頑張った授業や2学期に計画している授業などについて話し合しましょう! 授業力アップ研修グループのリーダーの先生方からアドバイスをいただけます!』

第3回授業づくり講座では、自らの授業力向上を図るために、1学期の実践を紹介したり、2学期の授業計画について話し合ったりしました。

講座が始まると、すぐに1学期の反省や2学期への悩みなどについて話し合う様子が見られました。また、現在取り組んでいる指導体験記録や教育研究などと関連付けながら、同じ学年だからこそ分かる悩みや、その解決に向けた工夫などについても話し合われていました。さらに、授業力アップ研修グループのリーダーの先生からもアドバイスをいただきました。経験年数が近い受講者同士であったため、和気あいあいと交流することができました。





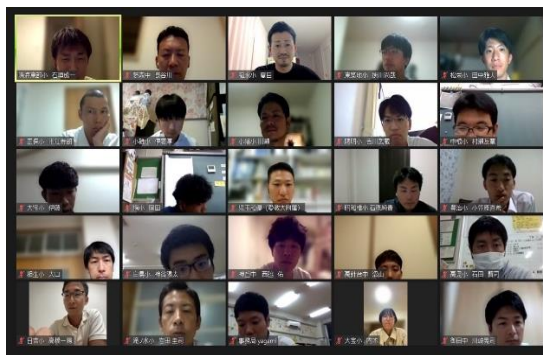
## ステップアップ研修

ステップアップ研修の受講者・指導者を対象に、これまでに2回、全体会を開催しました。

第1回ステップアップ研修全体会は、5月に行い、名古屋市立小中学校長会社会科部会長の出井伸宏先生に「省察的实践(指導体験記録等を綴ること)を重ねることの意義—大学院で学んだこと—」と題し、ご講演いただきました。部会長の先生自ら同好会の研修活動がスタートする会でお話いただいた反響は大きく、Zoomと対面合わせて88名の方にご参加いただきました。体験記録を書くことが、いかに教師としての力量を向上させるのか、具体的な事例を基に学んでいただくことができました。

第2回ステップアップ研修全体会は、7月に行い、神丘中学校 西脇佑先生、滝の水小学校 岩田圭司先生、稲永小学校 夏目郁馬先生、愛知教育大学附属名古屋中学校 児玉和優先生を講師としてお招きし、『(指導体験記録で)特選をとった先生のここだけの話』をテーマに対談をしていただきました。

対談後は、ブレイクアウト機能を活用し、講師の先生方に直接質問をできる場を設けました。会の中で、「最近のトレンドとなる教育内容を捉えること」や「独りよがりの実践ではなく、参考文献や過去の論文、名古屋市の教育方針などを参考にすること」、「教師が児童から学ぶ姿が見て分かること」など、体験記録を執筆する上で大切なポイントを教えていただきました。



これらの研修会は、今年度の同好会活動のテーマ「憧れの人が見付かる同好会活動」を体現する、貴重な場となったのではないかと思います。

2月には第3回ステップアップ研修全体会を予定しています。今年度、工夫を凝らして行った様々な授業のアイデアを紹介し合う、実りある会となるよう計画中です。ぜひ、足をお運びください。

## 懇親会 11月21日(火) 於 ルブラ王山

11月21日(火)に名古屋市社会科同好会の懇親会が4年ぶりに開催されました。

懇親会当日は、多くの方に出席していただき、久しぶりの会を盛大に行うことができました。冒頭では、同好会会長の東港中学校長 太田智先生、新しい学校づくり推進部部長 大川栄治先生にごあいさつをいただきました。その後、名古屋市立小中学校長会社会科部会長の八熊小学校校長 出井伸宏先生の乾杯のご発声で会食が始まりました。



普段、あまり話す機会のない会員同士が交流する姿も見られ、今年度の同好会活動のテーマを体現する、とても有意義な会になったのではないかと思います。

## 授業力アップ研修グループ

1～6年目の先生方が、それぞれのグループごとに集まり、研修会を継続して開いています。

小・中どちらのグループも、多くの先生方にご参加いただき、各々が授業のアイデアを出し合ったり、悩み事を相談したりしています。

同世代の先生との横のつながりが深まる機会となり、参加している先生方からも好評を得ています。今後も、各グループのリーダーの先生を中心に、年度末まで研修を続けていきます。



【グループにて熱心に話し合いをしている様子】  
(左：小学校グループ) (右：中学校グループ)

## オンライン交流会 10月26日(木) オンライン開催

10月26日(木)に、第2回オンライン交流会を開催しました。

『授業で使えるアイスブレイク』のコーナーでは、参加者に授業で生かせる鉄板ネタを披露していただきました。

また、『これからの工業生産について』をテーマとするグループでは、小学校5年生の単元「自動車をつくる工業」の学習の進め方や捉えさせたいことについて話題に上りました。その中で、「地球環境の保護に関する世界的な取組や、日本のエネルギー自給率に関する課題などを取り上げることによって、本単元(自動車をつくる工業)における子どもの学びをより深めていくことができる。」という指導方法をご紹介いただきました。

今後も、会員同士が交流し、よりつながりを深めることができるように、工夫していきたいと思えます。



## ～今後の予定～

- 1月 18日(木) 19:00～ 小・中学校合同発表会(中小企業振興会館)
- 2月 2日(金) 18:30～ 第3回ステップアップ全体会(名古屋市公会堂)  
20:00～ 交流会(鶴舞公園付近)
- 2月 8日(木) 19:00～ 2月全体会(オンライン開催)

※各会の詳細につきましては、例会案内をご覧ください。

名古屋市社会科同好会公式LINEグループへの登録はこちら!!



ホームページの「学びの広場(会員限定)」では、昨年度、ステップアップ研修を受講された会員の「体験記録」や授業づくり講座で配布された資料などがご覧いただけます。

パスワードは「tokugawa15」です。ぜひご覧ください!